

私を変えてくれた剣道

東京都

東京櫛剣士会

小学6年 早川 莉歩

一年ほど前、弟が友達にさそわれて剣道の体験入会をすることになり、何気なくついて行ったことが、私の剣道を始めるきっかけでした。稽古場である体育館に入ってみると、初めて見る防具と道着、それにキリッとした所作、見わたすかぎり初めてのものだらけでとても驚きましたが、一瞬でその世界に引き込まれました。そして竹刀を振る先輩たちの格好いい姿を見て、「私も格好良くなりたい。」と思い、弟と一緒に入会することを決めました。

剣道を始めたばかりのころは、大変なことがたくさんありました。運動をまったくやってこなかった体では、重い竹刀を支えきれず、稽古のたびに足や手の皮がむけて痛い思いをしていました。所作を覚えるのにも苦労し、「稽古に行くのが嫌だな」と思うことが何度もありました。しかし、「私も先輩のように格好良くなるんだ」と自分に言い聞かせ、ひたすら基本の練習を繰り返しました。そうして稽古を続けていくうちに竹刀を振ることに慣れ、少しずつではあるもののできるが増え、稽古が楽しいと思えるようになってきました。

そしてその頃から、日常生活でも少しずつ変化がありました。剣道を始める前、私は自分の考えを言ったり、人前に出ることが苦手な性格でした。すぐに友達の流れに流されてしまい、友達の意見が自分の考えとは違うと思っても、それを相手に伝えることができませんでした。今考えてみると、その頃の私は自分に自信がなく、相手に嫌われてしまうことを必要以上に心配して、優柔不断な性格になってしまっていたのだと思います。しかし剣道を始めてしばらくたったころから、少しずつ自分の考えに自信が持てるようになり、それを相手に伝えられるようになっていきました。相手の意見を大切にしながら、自分の意見もはっきりと伝えられるようになると、友達もこれまで以上に自分の考えや気持ちを私に話してくれるようになり、友達との関係がより深まったのではないかと思います。また、六年生の運動会では、生徒代表として終わりの言葉

をスピーチする機会がありました。とても緊張したものの、落ち着いてやりとげることができました。あの、人前に出ることが苦手だった私が、全校生徒や先生たち、保護者の方たちの前で落ち着いて話すことができ、自分でも驚くとともに、また一つ自信がつけました。

稽古中に先生が教えてくれた言葉の中に、「打って反省、打たれて感謝」というものがあります。この言葉は、打って勝ったときは、「これはまだまだ自分の最高の一本ではないのではないか。」と反省し、打たれて負けた時は、「自分の弱い所を打っていただきありがとうございます。」と相手に感謝するという意味です。剣道を始めたばかりのころ、私は負けてしまうととても悔しがって相手への感謝を忘れてしまっていました。しかし、この言葉を学んでからは、勝っても負けても相手に感謝して、常に自分の行動を反省していこうと考えるようになりました。これからも剣道の稽古中や試合中にはこの言葉を忘れずに、日々励んでいきたいと思います。

来年、私は中学に入学します。中学生になると、部活動や勉強などで忙しくなり、自分で自由に使える時間が大きく減ると思います。ですが、剣道はずっと続けていきたいと思います。剣道は心も体も鍛えられて、大人になってもずっと学び続けていくことのできるものです。そんな剣道に出会えたことが、私の宝物です。剣道と出会えたことに感謝し、「打って反省、打たれて感謝」という言葉を胸に、長く剣道を続けていきたいと思います。